

チームで統一したケアを実践するために
排泄自立支援にむけて

田野病院 大庭早苗

【目的】

近年、当院入院患者の超高齢化が進み、当病棟の入院患者の平均年齢は82.3歳である。当病棟の「回りハ看護・介護10か条に関する評価表」の排泄評価が5点満点中2.0点と低く、スタッフ間で統一したケアが出来ていない事が原因と考えた。また、排泄の介助は在宅で介護する家族の高齢化もあり、負担の大きい項目である。そこで、スタッフが統一した排泄ケアを行う為に、1年間、共通の「排泄アセスメントツール」を用いて排泄自立支援の取り組みを行った。その結果を報告する。

【方法】

週2回、カンファレンスで排泄に問題のある患者に対して共通の「排泄アセスメントツール」に従い、個別性に応じた排泄介入プランを立案・共有して排泄自立支援に取り組んだ。また、取り組み前後の評価を、管理職と4名の評価者で行ない比較した。

【結果】

評価者全員の点数が上がった項目は「排泄の自立に向けた援助をしている」「安全・リスクマネジメントに配慮した排泄ケアをしている」「個別性やプライバシーを尊重した排泄ケアをしている」であった。平均評価点は2.5点(+0.1点)で微増であった。

【考察】

排泄動作の自立を促すためには、関わるスタッフの一貫した対応が重要であり、共有の「排泄アセスメントツール」を活用することで、スタッフ全員が同じ視点でアプローチ出来たことはケアの統一に繋がったと考える。